

P-19

舌の刺激（ベロタッチ）によりADLが改善した2事例

- 吉良直子，西 康代¹，立岡迪子²
（熊本市・中央区役所・保健子ども課，
¹熊本市西歯科クリニック，
²筑後市立岡歯科医院）

【目的】

舌及び口腔を刺激することで、口腔機能の発達を促しADLの向上を図る。

【方法】

ベロタッチ、あいうべ体操、リンシング、ガーグリング、ベロタッチ体操の実践。保育士による支援、1回/月程度の指導・評価、ラインでの支援

【結果】

○15歳男児は実施1ヵ月半で体幹が安定し、関節のこわばりが減少、涎が止まり、腕が水平に上がるようになった。口唇閉鎖が可能になったため歯軸の傾斜が緩やかになった。4ヵ月でリンシング可能となり発語が明瞭になった。医師からの紹介で、導入がスムーズだった。

○自閉傾向があると診断された3歳女児は保育園での体験の中でベロタッチを実践し 口腔機能の発達が促され、発語可能となった。表情が豊かになり、他者とのコミュニケーション能力が向上した。母親、保育士との連携がスムーズにとれ、今春幼稚園に入園できた。2事例とも口腔機能の改善とともに本人のADL、家族のQOLが大きく向上した。

【考察】

様々な口腔機能のリハビリがあるが、家人の負担を少なくするため、舌の3点を軽く刺激するベロタッチ法を用いた。簡便な本法は実践者の達成感が強く、自己肯定感や自尊感情を高める効果があった。多職種による支援環境が整っていたため継続性を維持できている。自尊感情を中心とした支援が医療機関、保育園との連携によって実現できた。話す、食べる等に課題がある児への歯科関係者の関わりは育児負担軽減等育児環境の改善に効果がある。口腔機能と生活面の改善に関しては保育士による観察と支援等が大きく役立った。口腔機能の改善は摂食や発語だけでなく本人及び家族のQOLの向上に寄与できる可能性が示唆された。

P-20

小・中学校におけるフッ化物洗口事業の取り組みについて

- 仁部郁代
倉元歯科医院（宮崎県日南市）

【目的】

宮崎県日南市におけるフッ化物洗口事業の取り組みは、平成13年度に3歳6か月児のむし歯有病者率が、全国トップになったことがきっかけとなり、フッ化物を利用した「よい歯の子育成支援事業」が始まった。その後、平成24年度に日南市立学校むし歯予防対策検討委員会が発足した。平成26年度から、フッ化物洗口が実施され、現在5年目を迎えたので、フッ化物洗口事業の取り組みについて報告する。

【実施方法】

水100mlに、フッ化物洗口薬剤ミラノール1.8g（NaF198mg）を専用の希釈用容器で溶解し、フッ素濃度900ppm、フッ化ナトリウム濃度0.198%の洗口液を作成する。週1回、児童生徒1人につき10mlのフッ化物洗口液を用いて、1分間洗口させる。フッ化物洗口後、約30分間は、うがいや飲食を避けるよう指示した。

【結果】

平成26年度から、保護者の同意が4分の3以上認められた学校より、順次開始した。平成30年度には、24校中23校で実施できる状況となった。

【考察】

日南市では、「健康日本21」に基づき、健康増進計画「健康にちなん21」を策定している。その取り組みの中に、12歳児の一人平均う歯数を1.0本未満としている。平成29年度においては、1.32本であった。目標値に到達する為には、ライフステージに応じた、学校歯科医による適切な口腔保健教育が必要であり、同時に、他律的健康管理から自律的健康管理が行えるような児童生徒を、学校保健関係者と協力して教育していくことが大切だと感じた。